

[人口減少社会適応策]

地域自治・地域社会の在り方

（趣旨）

高齢化・人口減少がこれからも進行すると考えられる。当市においても経済的発展や生活の質を持続するためのまちづくりが必須である。住む人にとってストレスが少なく、健康で住みやすい環境を目指していかなくてはならない。

地域自治、地域社会のあり方として、まずは地域コミュニティの維持、地域の活力の維持、暮らしやすいまちづくりといった、持続可能なまちづくりが必要。

（策として）

・将来の世代も現役の世代も満足するかたち（いつまでも安心して住み続けられるまち）をつくる。

・いつまでも安心して住み続けるための安心・安全で環境にやさしい工夫をしていかなくてはならない。

・水害、雪害など自然災害から守る。そして自然エネルギーを活用するなど環境にやさしく快適に住むことのできる工夫をする。

・子どもから高齢者まで、いろいろな世代の人が集まって、みんなが一緒に暮らせることが大切。そのために、地域の人たちが集まれる公園や保育施設などはもちろん、買い物のできる場所などもつくり、交流が活発になるような工夫をしていく。

人口減少に対応した社会システムの構築

地域公共交通

（趣旨）

高齢化社会が直面する課題のひとつが交通システムである。高齢化社会が直

面する課題のひとつとして、自家用車に代わる移動手段が必要。自家用車の代わりに利用される電車とバスにおいて、当市は利便性が高く充実した公共機関が整備されているとは言えない。

(策として)

- ・地域公共交通の縮小見直し、特に高齢者の移動手段の確保など社会全体で生活を支える体制の整備が必要。
- ・高齢者の公共交通機関利用促進策に対する地方公共団体へ働きかけ
- ・乗合タクシー等、高齢者が利用しやすいサービスの導入
- ・タクシーの相乗りの促進
- ・持続可能な移動手段の確保・維持を促進する観点から、小中学校が運営するスクールバスを、自家用有償旅客運送に転換する

空き家対策

(趣旨)

空き家が増加することで起こる社会問題がたくさんある。第一に倒壊による安全面の問題。第二に治安の悪化である。空き家が放置されることで廃棄物などの不法投棄されることもある。居住者が亡くなり、引っ越しなどで不在となっても売却されず、賃貸にも出されないことで空き家が増加している。また税制的な問題も原因にあげられると感じる。

(策として)

- ・空き家撤去を促すためには、命令や代執行などの強制的な手段だけではなく、場合によっては撤去するための費用を財政支援することも必要である
- ・危険な老朽空き家住宅を解体するための費用を助成
- ・空き家の現状と危険な空き家の防止策、空き家の活用方法など、市民にわかりやすく周知するため専用のリーフレットなどを使って空き家対策に取り組む
- ・地域の不動産会社等の事業者や弁護士などの士業と協定を締結し、相談窓口を運営する。専門家による空き家の相談窓口の設置

[人口維持・増加案]

少子化対策と子育て支援

(趣旨)

夫婦共働きが当たり前の現在にとって子育ては家族以外のサポートが非常に必要である。行政にとっても、子育て世帯の支援は永遠の大きな課題で、当市においても力を入れている。子育て支援が手厚い地域で暮らしたい人も多いはず。また、子育て世代と若者を呼び込む施策が必要になっていく。

(策として)

・少子化対策と子育て支援として、地方の特に若い女性が住みたくなるまちづくり、働きながら子育ての出来る環境づくり、若い女性に選ばれる地域づくりといった、若い世代が子育てしやすい環境の整備が必要と考える。

社会増減対策と地域活性化

(趣旨)

人口減の時代にあって定住人口を増やすことは難しく、定住する側にとっても仕事面や住宅などハードルは高い。そして更に、地方経済の弱体化や過疎化、少子高齢化が深刻化しており、地域を元気にするためには目的として「地域創生」に向けた取組が必要になってくる。

(策として)

・社会増減対策と地域活性化として、何らかの関係や上越市のファンを増やすなど「交流人口の拡大」「関係人口の拡充」が必要と考える。

例えば、子育て世代夫婦や都市圏出身の大学生などを対象に、関係人口の創出・拡大に取り組むなど・・・農業の収穫体験やレクリエーションの開催。地域農業のファンを作る。地域住民とのマッチングの支援など、魅力的な取組を行う。また、地域のイベントを開催し、その土地の暮らしや農産物を体験できるようなプログラムを開催し、移住したときの生活イメージをしやすくなるなど。